

情報科学専門学校

平成 28 年度自己点検評価報告書（ISO 29990 対応版 Ver. 2.0）

実施日：平成 29 年 7 月 1 日

学校名：情報科学専門学校

1. 学校の教育目標

(1) 高度な技術力の修得

卒業後、社会に貢献できる実践的な技術を最新のニーズに対応して習得させる

(2) 文章作成能力の育成

高度 IT 社会で重要となる論理的思考力を日々の授業を通して育成する

(3) 豊かな人間性の涵養

感動ある学生生活を通じて礼儀・感謝する気持ちを備えた豊かな人間性を涵養する

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

| 課 題 | 方 策 | 成果指標 |
|----------------|---|--|
| トップガン人材が集まる専門力 | <ul style="list-style-type: none">実践 AI と実践 IoT 教育の新規開始外部コンテストへの計画的な参加CEATEC Japan2017 参加とブース出展第 2 回高校生セキュリティコンテスト実施1 階スペースを活用した実践的教育の発信 | <ul style="list-style-type: none">新規科目開始計画の順守コンテスト参加数企業からの問合せ件数セキュリティコンテスト高校生参加者数 |
| 指導力の革新 | <ul style="list-style-type: none">AI, IoT 分野における新たな産学連携の開拓学生間の教え合いの試行3, 4 年学科ゼミ制の開始マイルストーンレビューによる年次ごとの学習到達度の評価教育データの蓄積と実践力の相関分析教職員による外部動向調査、相互研修会の促進 | <ul style="list-style-type: none">今年度実績件数 2 件以上SEC 科 2 年生への適用ゼミ制度の満足度評価マイルストーンレビューの達成状況AI による分析トライアル個人目標の達成 |
| 多様な教育の提供 | <ul style="list-style-type: none">中核人材養成事業（文科省）を活用した産学連携によるセキュリティ e-learning 講座の開発医療分野への IT 教育の充実PROG テストを活用した非認知力の育成アクティブラーニングの定着海外連携の可能性調査（交換留学、インターン） | <ul style="list-style-type: none">e-learning 講座の作成と学生への適用医療情報での IT 教育実施PROG テストの実施と分析アクティブラーニング型授業実施とノウハウ共有 |

3. 評価項目の達成及び取組状況

| 1 教育理念・目標 | | 適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1 | エビデンス（文書番号） |
|-----------|--|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1 | 1 理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか） | ④ 3 2 1 | 「学生生活の手引き」の p.45～46「学科目標」、 学校案内 |
| 1 | 2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか | ④ 3 2 1 | 平成 28 年度第 1 回教育 課程編成委員会議事録 |
| 1 | 3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | ④ 3 2 1 | 平成 28 年度第 2 回教育 課程編成委員会議事録 |
| 1 | 4 学校における職業教育の特色は明確になっているか | ④ 3 2 1 | 定例部長会議資料「平成 28 年度重点課題」 |
| 1 | 5 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか | 4 ③ 2 1 | 新入生・保護者ガイダンス 配布資料（平成 28 年度版） |

① 課題

- ・ 理念、目的、育成人材像、特色、将来構想等について入学時の新入生保護者ガイダンスにおいて説明をしているが、ガイダンス欠席者や在校生に対する周知・徹底が不十分である

② 今後の改善方策

- ・ 今年度より学校案内パンフレットに理念・目的・育成人材像が明記されており、入学前の高校生・保護者にも納得して入学いただけるよう説明を行う。
- ・ 入学後の 2 週間の導入教育「基礎ゼミナール」の授業内で、上記について周知・徹底を図る
- ・ 保護者宛発送文書に上記ガイダンスの配布資料を同封する

③ 特記事項

- ・ 平成 25 年度より業界団体の有識者および学科ごとの専門分野に対応した外部企業の有識者からなる「教育課程編成委員会」を年 2 回定期開催。これにより、業界の動向や企業のニーズに合わせて学科ごとの育成人材像を迅速に見直すことができる体制となっている。

| 2 学校運営 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|--------|----|---|-------------------------------|--|
| 2 | 1 | 専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った適切な運営がなされているか | ④ 3 2 1 | 職業実践専門課程申請書類一式（様式1～4） |
| 2 | 2 | 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度 事業計画キックオフ資料、組織図、校務分掌 |
| 2 | 3 | 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか | ④ 3 2 1 | 同上 |
| 2 | 4 | 目的等に沿った事業計画が策定されているか | ④ 3 2 1 | 同上 |
| 2 | 5 | 事業計画に沿った運営方針が策定されているか | ④ 3 2 1 | 同上 |
| 2 | 6 | 人事、給与に関する制度は整備されているか | ④ 3 2 1 | 就業規則、給与規定、人事規程 |
| 2 | 7 | 教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか | ④ 3 2 1 | 「平成28年度 非常勤ミーティングの実施について〔実施要項〕」（平成28年4月1日）、議事録 |
| 2 | 8 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 ③ 2 1 | 就業規則、問合せ窓口の情報 |
| 2 | 9 | 教育活動に関する情報公開が適切になされているか | ④ 3 2 1 | 「職業実践専門課程の基本情報について」（様式4）、ホームページ |
| 2 | 10 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | ④ 3 2 1 | 学習支援システム、学園ネットワーク利用規程 |
| 2 | 11 | 教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか | ④ 3 2 1 | 「第1回業務GL会議議事録」、定例部長会議資料 |
| 2 | 12 | 学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか | 4 ③ 2 1 | 学習支援システム |
| 2 | 13 | 利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか | ④ 3 2 1 | ホームページ上で各種問い合わせ先の案内 |

① 課題

- ・利害関係者（学生、保護者、地域社会、業界、高校教員 等）からの苦情・要請への対応として、電話、メールによる問合せ窓口を設定しているが、標準的な対応手順書が整備されていない

② 今後の改善方策

- ・問合せ内容別の対応方法をまとめた対応手順書を作成

③ 特記事項

- ・就職率、出席率、資格合格率、教員アンケートスコアなど教育に関する成果は極力数値化し、年度ごとに目標をたて、実績を振り返り、改善策を立案するPDCAサイクルが確立できている。
- ・また、出席管理、成績管理、就職支援、学生支援等の各種学内システムを構築し、業務の効率化を進めるとともにデータを可視化することで教育の質向上にも役立てている。

| 3 教育活動 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|--------|---|--|-------------------------------|---------------------------------|
| 3 | 1 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 ③ 2 1 | 学習支援システムの学習ガイド（達成目標や各回の学習課題を明示） |
| 3 | 2 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか | ④ 3 2 1 | 学習支援システムの学習ガイド |
| 3 | 3 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度 事業計画キックオフ資料 |

| | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|--|
| 3 | 4 | 情報・IT分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成28年度第1回教育課程編成委員会議事録 |
| 3 | 5 | 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成28年度 テクノロジー系 1年学習フレーム |
| 3 | 6 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | ・学習支援システムの学習ガイド(学習進度マップに科目間の関係を記載) ・カリキュラムミーティング議事録 |
| 3 | 7 | Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システムの学習ガイド(各回の学習課題にCan-Doが記載) |
| 3 | 8 | 情報・IT分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 「職業実践専門課程の基本情報について」(様式4) |
| 3 | 9 | シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システムの学習ガイド |
| 3 | 10 | 実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 教室管理一覧(2017年7月1日印刷) |
| 3 | 11 | 学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システム(全科目のアンケート結果) |
| 3 | 12 | 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 「学生生活の手引き」の「履修要綱細則等」p.39~41 単位認定 |
| 3 | 13 | 職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成28年度第1回教育課程編成委員会議事録 |
| 3 | 14 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 | ③ | 2 | 1 | 学習支援システム(全科目のアンケート結果) |
| 3 | 15 | 閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システム(ログイン時の認証機能およびアクセス制限機能) |
| 3 | 16 | 教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成29年度校務分掌 |
| 3 | 17 | 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 | 3 | ② | 1 | 履歴書、時間割表 |
| 3 | 18 | 教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか | 4 | 3 | ② | 1 | 人事考課表 |
| 3 | 19 | 情報・IT分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成28年度教員研修実績(情報処理科) |
| 3 | 20 | 職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか) | 4 | ③ | 2 | 1 | 平成28年度教員研修実績(情報処理科) |
| 3 | 21 | 情報・IT分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか | 4 | 3 | ② | 1 | 連携講座に関する契約書 |

① 課題

- ・職種ごとに求められるコアコンピテンシーを整理した職務記述書をH28年度内に作成
- ・各専門分野に対応した教員を確保するように努めている。また、教職員全般に必要なコンピテンシーが「Iwasaki Way」として明文化されている。一方で、職種ごとに必要なコンピテンシーを定義した職務記述書は未整備である。
- ・人事考課は学校の年度目標を基に作成した個人目標の達成状況を踏まえて実施している。ただし、職務記述書との関連付けはなされていない。

② 今後の改善方策

- ・職種ごとに求められるコアコンピテンシーを整理した職務記述書をH29年度内に作成。

③ 特記事項

- ・当校の学習ガイド(シラバス)は「〇〇について学ぶ」ではなく「〇〇を確実に習得する」という形式で作成されている。そのため教員の役割は「授業を行うこと」ではなく「学生に理解させること」と定義されている。学生の理解が不十分な場合は補講を行うなどして確実に理解度を保証する仕組みとなっている。

| 4 学修成果 | | 適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1 | エビデンス（文書番号） |
|--------|---|-------------------------------|--|
| 4 | 1 | ④ 3 2 1 | ・「学生生活の手引き」のp.45～46「学科目標」 ・学習支援システムの学習ガイド |
| 4 | 2 | 4 ③ 2 1 | ・学習支援システムのパーソナルストーリーレポート ・卒業生交流会出席名簿 |
| 4 | 3 | ④ 3 2 1 | 学習支援システムの学習ガイド（達成目標、評価基準が記載） |
| 4 | 4 | 4 ③ 2 1 | ・平成26年度第2回教育課程編成委員会議事録 ・人事考課表 |
| 4 | 5 | ④ 3 2 1 | ・成績証明書（学校長名で発行） ・卒業証書（専門士の認定） |
| 4 | 6 | ④ 3 2 1 | ・平成28年度第1回教育課程編成委員会議事録 ・平成29年4月21日 部長会議資料（平成28年度総括の2.平成28年度重点項目と達成状況） |
| 4 | 7 | 4 3 ② 1 | ・連携講座に関する契約書 ・学習支援システムの学習ガイド |
| 4 | 8 | ④ 3 2 1 | ・就職先アンケート（上司用・本人用） |

① 課題

- ・在校生の活動については学内活動・課外活動を含めて学習支援システム(学内支援システム)に登録されており確実に把握できている。一方で、卒業生の活躍状況を定期的に把握する仕組みは構築されていない。

② 今後の改善方策

- ・就職先アンケートを定期的に実施(3年に1回を予定)。

③ 特記事項

- ・一昨年度より、学生の就職先企業宛てに当校で学習したことが実務で活かされているかどうか本人および直属の上司に確認する「就職先アンケート」を実施。本年度はそれを踏まえて、より実務に即したカリキュラムを構築するための3か年計画を作成。

| 5 学生支援 | | 適切・4、ほぼ適切・3、 やや不適切・2、不適切・1 | エビデンス（文書番号） |
|--------|---|-------------------------------|--|
| 5 | 1 | ④ 3 2 1 | ・学習支援システムの学習ガイド（「就職準備講座α」、学生の就職活動の状況） ・就職指導部の業務分掌規程 |
| 5 | 2 | ④ 3 2 1 | ・平成28年度 事業計画キックオフ資料 ・学習支援システムの学生状況履歴 |
| 5 | 3 | ④ 3 2 1 | ・学習支援システムの保護者向けコメント（保護者宛文書） ・学習支援システムの学生状況履歴 |

| | | | | | | | |
|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 4 | 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成 27 年度入学案内書 (既卒者の学び直しに特 化した IT ライセンス科) |
| 5 | 5 | 卒業生への支援体制はあるか | 4 | 3 | ② | 1 | 校友会ホームページ |
| 5 | 6 | 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービ ス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートにつ いて案内しているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 「快適な学園生活のため に」(平成 28 年 4 月 1 日 オリエンテーション配布 資料) |
| 5 | 7 | 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 平成 29 年度生学生募集 要項 p.10 学費サポー トシステム 岩崎ともみ奨学財団奨学 金募集要項 |
| 5 | 8 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | ④ | 3 | 2 | 1 | 健康診断実施要領 |
| 5 | 9 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システムの学修 ガイド(「基礎ゼミナ ール」の「キャンパスラ イフ紹介)、クラブの活動 報告書 |
| 5 | 10 | 学生の生活環境への支援は行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 学習支援システムの個別 面談欄、学内カウンセラ ーの案内 |
| 5 | 11 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の 取組が行われているか | ④ | 3 | 2 | 1 | 高専連携講座契約書 |

① 課題

- ・就職支援、学習支援はもとより保護者との連携、担任による生活指導、学内カウンセラーの配置など
在校生に対する支援体制は確立されているが、卒業生に対する支援体制がホームページによる情報提
供にとどまっている

② 今後の改善方策

- ・H27 年度から開始した「卒業生交流会」を通して、卒業生同士の交流機会を増やすとともに、卒業生
のニーズの把握に努める。

③ 特記事項

- ・従来の貸与型奨学金制度に加え、H27 年度より「岩崎ともみ奨学財団」による給付型奨学金の制度を
開始。学習意欲がありながら経済的事情により就学困難な学生への支援を強化。

| 6 教育環境 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|--------|---|--|-------------------------------|--|
| 6 | 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | ④ 3 2 1 | ・教室管理一覧 ・入学案内書 |
| 6 | 2 | 学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。 | 4 3 ② 1 | ・備品不具合連絡シート ・平成29年度校務分掌 |
| 6 | 3 | 教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか | ④ 3 2 1 | ・平成28年度教員研修実績（情報処理科） ・避難訓練実施要領 |
| 6 | 4 | 防災に対する体制は整備されているか | ④ 3 2 1 | 新入生・保護者ガイダンス 配布資料（平成28年度版）、防災体制の組織図 |
| 6 | 5 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | ④ 3 2 1 | ・平成28年度インターンシップ・コンテスト報告会実施要項 ・研修所利用規定 |

① 課題

- ・学校施設、備品（コンピュータ、周辺装置、図書 等）は定期的に点検しているが、備品の管理台帳が存在しないため、備品の所在・点検状況を確認しにくい状況にある

② 今後の改善方策

- ・各授業室の施設・備品の管理責任者を明記。毎週金曜日に設備・備品のチェックを行い、不具合がある場合は各学年のグループリーダに報告し直ちに是正する。

③ 特記事項

- ・平成28年度より教務課長が甲種防火・防災管理者の資格を取得し、防災計画の見直しに着手している。
- ・通常の避難訓練の他に、不審者、暴漢の侵入に備えた防犯訓練等も実施している。

| 7 学生の受入れ募集 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|------------|---|--|-------------------------------|---|
| 7 | 1 | 学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか） | ④ 3 2 1 | 平成29年度生入学願書 |
| 7 | 2 | 履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度生入学願書 |
| 7 | 3 | 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度生学生募集要項 |
| 7 | 4 | 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか | ④ 3 2 1 | 平成29年度生学生募集要項 |
| 7 | 5 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | ④ 3 2 1 | 入学案内書 |
| 7 | 6 | 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか | 4 ③ 2 1 | ・平成29年度生学生募集要項 ・入学案内書 ・学生生活の手引き |
| 7 | 7 | 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか | ④ 3 2 1 | 学習支援システムのウェルカムテスト欄および、入学前履歴 |
| 7 | 8 | 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか | ④ 3 2 1 | ・新入生・保護者ガイダンス 配布資料（平成28年度版） ・平成29年度生入学願書 |
| 7 | 9 | 学納金は妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 | ・平成29年度生学生募集要項 |

① 課題

- ・評価手段、基準等に関する詳しい説明は入学前に行っていない。

② 今後の改善方策

- ・希望者には学生生活の手引きを見せるなどして説明を行うようにする。

③ 特記事項

- ・職業実践専門課程認可を期に就職率、退学率等のデータも公表するなど透明性を高め、受験生にとって誤解なきよう努めている。

| 8 教育の内部質保証システム | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|----------------|---|---|-------------------------------|---|
| 8 | 1 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | ④ 3 2 1 | ・学習支援システムのログ イン認証 ・個人情報取扱規定 |
| 8 | 2 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | ④ 3 2 1 | ・学生生活の手引き「情報科学専門学校学則」 ・マネジメントレビューの記録 |
| 8 | 3 | 文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか | ④ 3 2 1 | 文書管理規定 |
| 8 | 4 | 自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか | ④ 3 2 1 | 平成27年度自己点検・評価報告書（平成28年7月1日） |
| 8 | 5 | 監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか | 4 ③ 2 1 | 内部監査報告書 |
| 8 | 6 | 内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか | 4 ③ 2 1 | 内部監査報告書 |
| 8 | 7 | 内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか | 4 ③ 2 1 | 内部監査報告書 |
| 8 | 8 | 自己点検・評価結果を公開しているか | ④ 3 2 1 | ホームページにて公開 |

① 課題

- ・今年度より内部監査(学校法人内の他部門に在籍する ISO29990 内部監査員によるエビデンスのチェック、ヒアリング 等による監査)を実施しているが、内部監査員のスキルが不十分である

② 今後の改善方策

- ・ISO29990 内部監査員有資格者(教務課長)による内部監査員の講習を実施。

③ 特記事項

- ・H25年度より自己点検評価および学校関係者評価を行っている。また、H28年度より内部監査および第三者評価も導入。評価結果を具体的な教育活動の改善につなげていきたい。

| 9 財務 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|------|---|--------------------------|-------------------------------|---------------------|
| 9 | 1 | 財務について会計監査が適正に行われているか | ④ 3 2 1 | 独立監査人の監査報告書（平成28年度） |
| 9 | 2 | 財務情報公開の体制整備はできているか | ④ 3 2 1 | ホームページにて公開 |
| 9 | 3 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | ④ 3 2 1 | 平成26～28年度 決算書 |
| 9 | 4 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | ④ 3 2 1 | 平成26～28年度 予算書 |

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・現状財務基盤は安定しており、継続的な学校運営に問題ない状況である。

| 10 社会貢献・地域貢献 | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|--------------|---|---|-------------------------------|---|
| 10 | 1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | ④ 3 2 1 | 「高校生セキュリティコンテスト」案内チラシ、小中学生対象チャレンジスクール実施要領 |
| 10 | 2 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | ④ 3 2 1 | こどもネットミュージアム主催の「夢絵コンテスト」のwebページ |
| 10 | 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | ④ 3 2 1 | ・公共職業訓練 受講者募集のご案内 |

① 課題

- ・特になし

② 今後の改善方策

- ・特になし

③ 特記事項

- ・現状の地域貢献は主に講座、コンテストの実施および学生のボランティア活動への参加である。地域社会に対する上記以外の方法での貢献形態が考えられるかどうか、ニーズの把握に努めたい。
- ・H28年度よりNPO法人こどもネットミュージアムの正会員となり、よりきめ細やかな地域のニーズの把握に努めている。

| 11 国際交流（必要に応じて） | | | 適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1 | エビデンス（文書番号） |
|-----------------|---|-------------------------------------|-------------------------------|-------------|
| 1 1 | 1 | 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか | 4 3 ② 1 | |
| 1 1 | 2 | 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか | ④ 3 2 1 | 留学生用募集要項 |
| 1 1 | 3 | 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか | ④ 3 2 1 | 学習支援システム |
| 1 1 | 4 | 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか | 4 ③ 2 1 | 学習支援システム |

① 課題

- ・就学を希望する留学生については、日本人学生と同様の基準で受入を行っている。ただし、留学生を対象として、特別な支援体制は確立されていない。

② 今後の改善方策

- ・留学生を受け入れることが教育の質向上にどのようにつながるかを見極めたうえで、留学生に対する支援策を検討したい。

③ 特記事項

- ・H28年度後期にガーナ、アルゼンチン、ナイジェリアの3か国から海外技術研修員を受入れ、研修を実施。今後も同様の案件があれば、積極的に受け入れを行う予定である。